

# チュウゴクアミガサハゴロモの発生と防除薬剤の検討

令和7年7月に県内のナシ・カンキツ園においてチュウゴクアミガサハゴロモの発生が確認された(病虫害防除技術情報第4号参照)。そこで、本種に対する各種薬剤の効果を把握するため、なし・かんきつに登録がある薬剤に限って試験を行った。

## ■ チュウゴクアミガサハゴロモの発生状況と識別方法

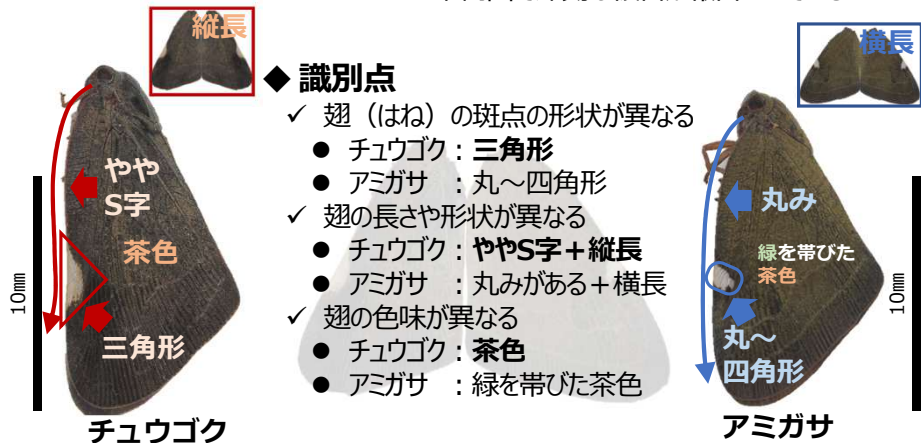


### ◆ 生態的特徴

- ✓ 寄主植物
  - チュウゴク：広食性、ブナ科、バラ科、ミカン科等
  - アミガサ：主にカシ類のみ
- ✓ 果樹類での報告
  - チュウゴク：カンキツ、ウメ、モモ、スモモ、カキ、ナシ、ブドウ、ブルーベリー、イチジク、リンゴ等
  - 令和7年7月に内子町のナシ、ユズで確認
  - 現状、県内での実害はないが、韓国では果樹園で深刻な被害が報告されている

### ◆ 識別点

- ✓ 翅(はね)の斑点の形状が異なる
  - チュウゴク：三角形
  - アミガサ：丸～四角形
- ✓ 翅の長さや形状が異なる
  - チュウゴク：ややS字+縦長
  - アミガサ：丸みがある+横長
- ✓ 翅の色味が異なる
  - チュウゴク：茶色
  - アミガサ：緑を帯びた茶色



## ■ 薬剤試験 (令和7年7月20日実施)

供試虫：ナシ・ユズで採取された個体

試験方法：伊予柑(ポット栽培)に各種薬剤を背負い式動噴で7月20日に散布し、散布1日後(7月21日)に各ポットに20kg玉ねぎネットで覆って、その中に5頭ずつ成虫を放飼した(各試験区は3ポット)。放飼後は雨よけの網室で管理した。放飼1日後(7月22日)及び放飼3日後(7月24日)に生死を判定した。

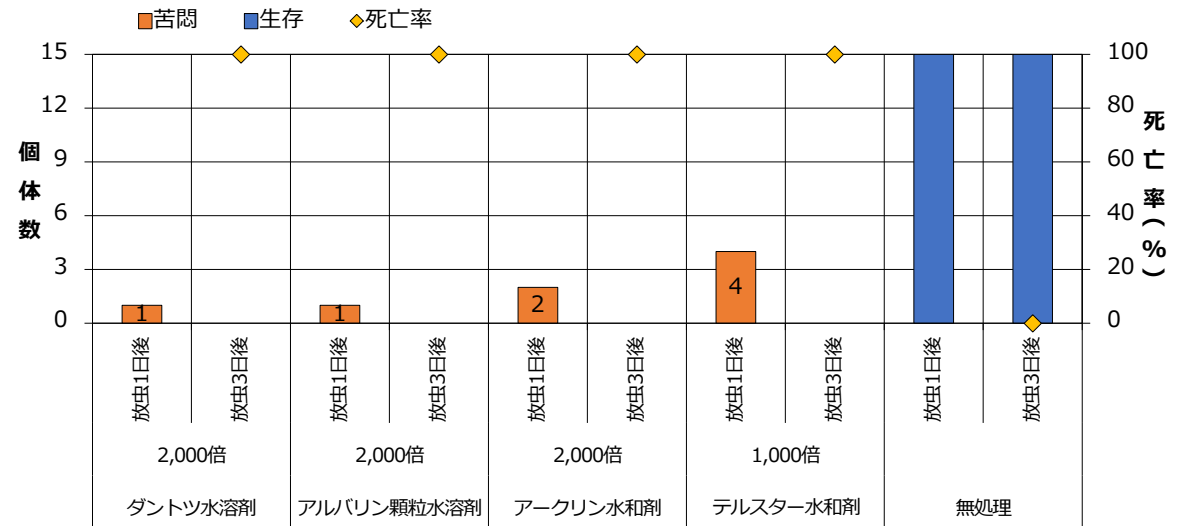


図 チュウゴクアミガサハゴロモ成虫に対する防除効果

注意：いずれの薬剤もチュウゴクアミガサハゴロモに登録がありません

・ダントツ水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤、アークリン水和剤、テルスター水和剤のいずれの薬剤も放虫3日後に死亡率100%となり、殺虫効果は高かった。

### 今後の課題

- ・本害虫がどの程度果樹類を加害するか不明であるため、発生動向に注意が必要である。
- ・被害が多発する等の問題があれば、今後、本害虫への適用拡大を含めた薬剤試験が必要と思われる。

■ 注意点: 本試験で供試した各種薬剤は、チュウゴクアミガサハゴロモへの登録がないので、本害虫を対象に薬剤散布は出来ません。